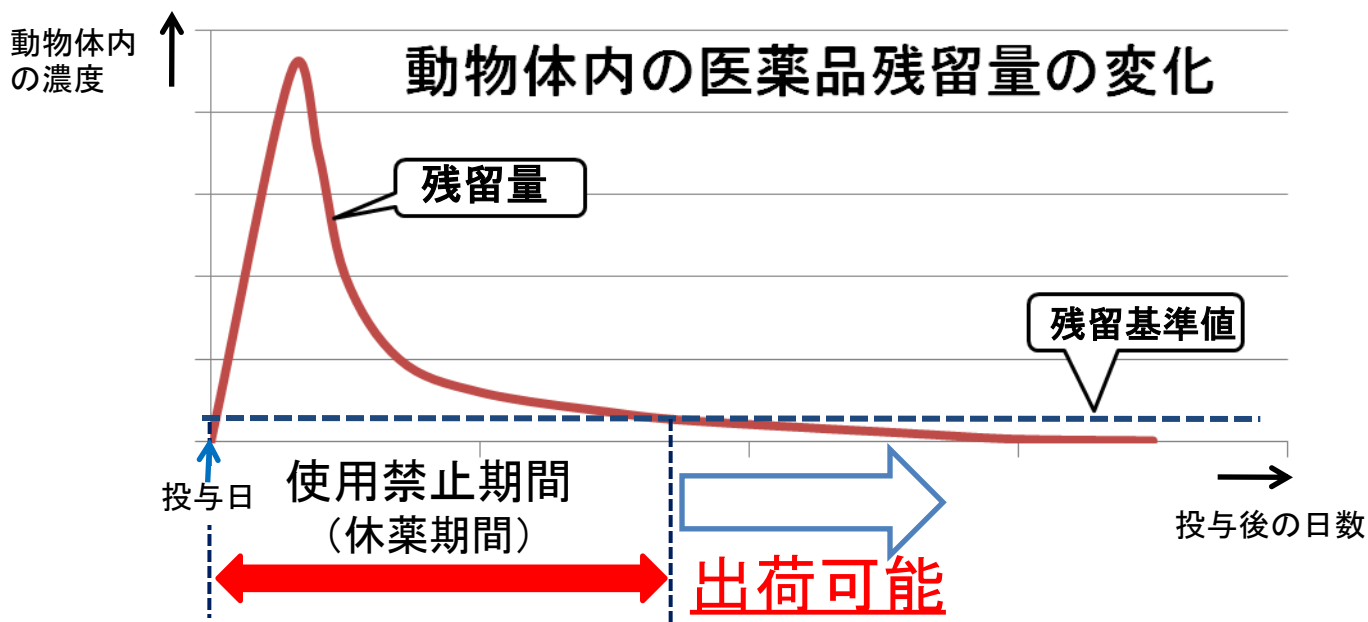


抗菌剤・駆虫薬は使用基準を守り、 正しく使いましょう

抗菌剤、駆虫薬などは、使い方、使用量、使用禁止期間（休薬期間）などの使用基準を守って使用しなければいけません。

使用基準を守らないと・・・

出荷した乳・肉・卵・蜂蜜に医薬品が残留基準値を超えて残留した場合、回収や廃棄の対象となります。

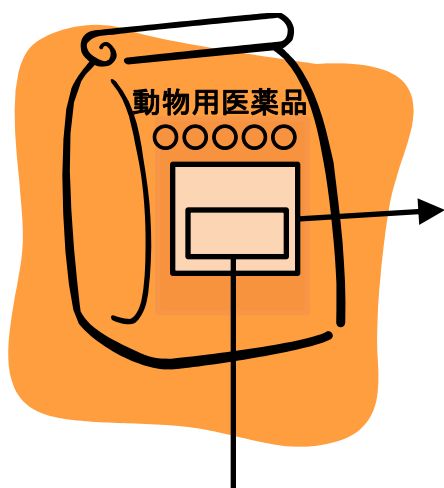


使用基準を守って使用すれば、安全・安心で問題のない畜産物として出荷できます。

使用禁止期間や投与方法を守らなかった事例（損害は農家負担）

- 牛に抗菌剤を飼料添加で投与すべきところを飲水投与し、休薬期間を1日短く出荷したため牛肉にスルファモノメキシシが残留（124kg回収）。
- 出荷前の豚に抗菌剤の入った子豚用飼料を誤って投与したため、豚肉にドキシサイクリンが残留（87頭分の枝肉等を回収）。
- 採卵鶏に使用できない抗菌剤を投与し、卵にトリメトプリムが残留（自主回収も含め約101万個回収）。当該農家は廃業。
- 腐蛆病予防薬を専用飼料ではなく、自家調製飼料に添加したため、飼料が巣箱内に粘着。洗浄で除去しきれず、はちみつにミロサマイシンが残留（3t回収）。

使用基準の確認と使用の記録



<表示例>

動物用医薬品 ○○○○○(商品名)
効能・効果
牛の内部寄生虫および外部寄生虫の駆除

用法・用量

体重1kg当たり0mlを1回、牛の背線部のき甲から尾根にかけて直線的に注ぐ。

注意－使用基準のとおり使用すること

使用基準は、囲み枠に記載
(裏面に記載の場合もあり)

注意:本剤は医薬品医療機器等法第83条の4の規定に基づき上記の用法及び用量を含めて使用者が遵守すべき基準が定められた医薬品ですので、使用対象動物(牛)について上記の用法及び用量並びに次の使用禁止期間を遵守してください。

牛(搾乳牛を除く。):

食用に供するためにと殺する前〇日間

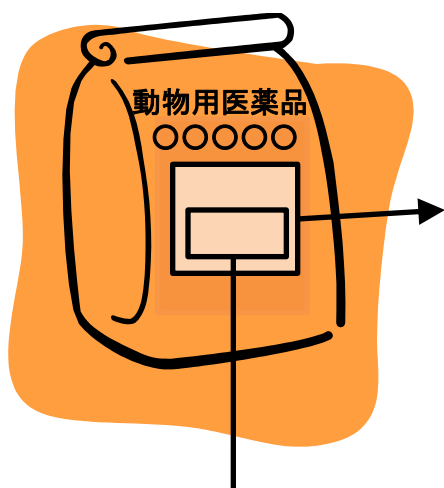
対象動物

使用禁止期間(休薬期間)

- 医薬品を使用したら、使用記録を付けて保管しましょう。
①使用年月日、②使用場所、③対象動物、④薬品名、⑤用法・用量、⑥出荷可能日
動物用医薬品を適正に使用した記録になります。
- 獣医師の発行した動物用医薬品指示書や出荷制限期間指示書がある場合は、使用記録と一緒に保管しましょう。

未承認動物用医薬品(個人製造や輸入)の使用は、薬事法で禁止されています。また畜産物に残留した場合、回収・廃棄の対象となり、人で健康被害が発生した場合は、使用者の責任となります。

使用基準の確認と使用の記録



<表示例>

動物用医薬品 ○○○○○(商品名)
効能・効果
豚：豚回虫の駆除

用法・用量

飼料1t当たり0gを均一に混合し、0日間経口投与する。

注意－使用基準のとおり使用すること

使用基準は、囲み枠に記載
(裏面に記載の場合もあり)

注意：本剤は医薬品医療機器等法第83条の4の規定に基づき上記の用法及び用量を含めて使用者が遵守すべき基準が定められた医薬品ですので、使用対象動物(豚)について上記の用法及び用量並びに次の使用禁止期間を遵守してください。

豚：食用に供するためにと殺する前0日間

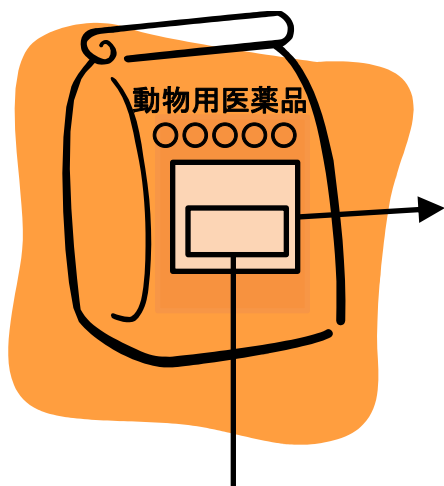
対象動物

使用禁止期間(休薬期間)

- 医薬品を使用したら、使用記録を付けて保管しましょう。
①使用年月日、②使用場所、③対象動物、④薬品名、⑤用法・用量、⑥出荷可能日
動物用医薬品を適正に使用した記録になります。
- 獣医師の発行した動物用医薬品指示書や出荷制限期間指示書がある場合は、使用記録と一緒に保管しましょう。

未承認動物用医薬品(個人製造や輸入)の使用は、薬事法で禁止されています。また畜産物に残留した場合、回収・廃棄の対象となり、人で健康被害が発生した場合は、使用者の責任となります。

使用基準の確認と使用の記録



<表示例>

動物用医薬品 ○○○○○(商品名)
効能・効果
鶏： 鶏回虫、鶏毛細線虫、鶏盲腸虫の駆除

用法・用量

**体重1kg当たり次の量を1回飲
水に溶解、飼料に添加又は練り
餌状にして経口投与する。**

鶏(採卵鶏を除く)本剤〇mg

注意－使用基準のとおり使用すること

使用基準は、囲み枠に記載
(裏面に記載の場合もあり)

注意：本剤は医薬品医療機器等法第83条の4の規定に基づき上記の用法及び用量を含めて使用者が遵守すべき基準が定められた医薬品ですので、使用対象動物(鶏)について上記の用法及び用量並びに次の使用禁止期間を遵守してください。

鶏(採卵鶏を除く)：〇日間

対象動物

使用禁止期間(休薬期間)

- 医薬品を使用したら、使用記録を付けて保管しましょう。
①使用年月日、②使用場所、③対象動物、④薬品名、⑤用法・用量、⑥出荷可能日
動物用医薬品を適正に使用した記録になります。
- 獣医師の発行した動物用医薬品指示書や出荷制限期間指示書がある場合は、使用記録と一緒に保管しましょう。

未承認動物用医薬品(個人製造や輸入)の使用は、薬事法で禁止されています。また畜産物に残留した場合、回収・廃棄の対象となり、人で健康被害が発生した場合は、使用者の責任となります。